

○平成 24 年 10 月 2 日 教育委員会

(北山議員)

1. 学校の芝生化について

私は、かねてから小学校の校庭に芝生を敷いてほしいと思っている。芝生の上で裸足で遊んだり、寝ころがったりすることは大人でも気持ちよく、子どもたちにとっては、心身の健康や情操教育に間違いなく、とてもよい影響を与えている。また、本日の委員会でも学校への空調の設置が議論となったところだが、芝生を敷き、ゴーヤや琉球朝顔などによるグリーンカーテンを設置すれば、学校の暑さ対策としても効果があると聞いている。

ぜひ、神戸の多くの子どもたちの健やかな成長と伸びやかな教育を進めるため、学校の校庭の芝生化およびグリーンカーテンの設置をお願いしたいが、見解を伺いたい。

(森岡担当部長)

校庭の芝生化については、夏の暑さを和らげること、砂ぼこりの飛散防止のほか、維持管理作業を通じた地域コミュニティ形成といった素晴らしい効果があり、これまで芝生化を進めてきているが、現在の実施校数数は全体で 25 校、小学校は 12 校とあまり進んでいないのが現状である。緑のカーテンがすでに 100 校近くの学校で取り組んでいることと比べると、あまり進んでいない状況である。

芝生化が進みにくい最大の理由は、その維持管理である。特に夏の時期は週 1 回程度の芝刈作業が必要であり、このような作業を誰が主体となって行うのかといった課題がある。教職員の多忙化が進む中で、学校で定期的に芝刈り等の維持管理を行うことは非常に困難であり、その問題をどう解決するかが、今後の課題であると考えている。先ほどの答弁で、神戸っ子応援団との連携をどう図っていくのかということについて、教育長が思いを述べたが、神戸っ子応援団の目的自体が、学校の教育活動と環境整備を、学校と地域の連携を深め、地域の活性化につなぐことを目的としたものであり、教育長の思いも非常に強いものがあるので、芝生化については前向きに進めてまいりたい。出来るだけ我々も出向くような形で、神戸っ子応援団に理解を得られるよう取り組みたい。他都市で進んでいる事例もあるが、他都市は東京都のようにお金にあかして整備をし、いわゆる業者で維持管理をしているものであり、そういったものではなく、地域と一体となったような芝生整備を神戸市としては取り組んでいきたいと考えている。

(永井教育長)

芝生化については、私が復興記念事業で、市民から公募をしてはじめた事業である。そのとき、事務所に某市議員から「税金で芝生化をするようなことは許さない。子どもが裸足で走って、もしガラスが落ちて子どもが怪我をしたらどうするのか。そんなことよりもトイレを直せ」といったお叱りを受けた。「税金は一銭も使わない」ということで、とりあえず 1 校で実施をしたわけであるが、それが桜の宮小学校である。

芝生化の課題としては、少年野球やサッカーなどいろいろあるが、学校体育が悪い。目の敵のように校庭を走り回る、そういったやり方が問題である。また、日本の気候風土で成り立つような芝がなかなか見当たらないという問題もある。管理問題は、復興記念公園でひとつやった。ポット苗で芝を植えていただいて、それを持ち寄っていただいて、皆で管理するというやり方が出来なければ、いつまで経っても出来ない。言うのは簡単だが、最初に成徳小学校で100㎡で実験をした。市長が朝のランニングのついでに見に行かれたが、「どこを見てもない」と言われるとおり、一ヶ月ではげてしまった。皆気持ちがいいから、その上で遊んでしまう。芝生は夏の暑い時期に張るが、そこに蝶が入ってくるくらい、2～3℃は温度が違う。そのときに子どもから「たくさん学校がある中で、成徳小学校を選んでくれてありがとう。絶対に枯らさないから」と言われたが、一ヶ月で枯れてしまった。

その後、東京はコンクリートの校庭を芝生化すると、また、京都は宝酒造の会長が金を出すからやれ、大阪は橋下知事が金を出すからやれ、とのことだったが、そんなもので何が育つのか。芝も枯れてしまうと思う。

2. 伝統文化の授業での取り組みについて

(北山議員)

私は、小さいうちから伝統文化に触れることはその後の成長に大きな影響があると考えている。たった1回でもよいので本物を見たり体験するだけでも、理解は全然違うものである。そこで、学校教育において伝統文化を取り入れることをもっと真剣に考えてもらいたい。

これまでも学校で本物の日本の伝統文化に触れさせてほしいと、何度も教育委員会にお願いしてきたところだが、一向に進んでいないように感じている。どうしてできないのか、何が妨げになっているのか、明らかにしてもらいたい。

本物に触れる機会を作ることはそれほど難しいことではない。たとえば、学校の課外活動で能の稽古を子どもたちに見せる、また音楽の授業で民謡を扱うときに本物の講師を呼んで民謡を教える、あるいはNEO琴のような楽器ではなく、本物の琴や三味線を実際に聞いたり弾いてみる機会を設けるなど、伝統文化を取り入れる方法はいろいろとある。講師を探すのもそれほど難しいことではなく、子どもたちのためならいつでも学校に向かうと言ってくれる民謡家もいる。そういうことを考えると、やろうと思えば出来ることである。実際に、学校にはどれほどの楽器が揃っているのか、調べてみたところ、京都や大阪、堺、横浜、名古屋といったところと比べても、横浜が抜群によいが、神戸もそん色ない。それだけのものがあるのに、遊ばせているだけなのではないかと思うが、どうか。

(林指導部長)

楽器を遊ばせるわけにはいかないもので、その辺りは確認していきたいと思う。また、地域に意欲のある方々がおおり、本物を伝えていただけるということで、学校にも照会をかけている。講師に来ていただきたいという学校もつかんでいる。ぜひ、そういう意欲のある方々にお力添えいただきたい

と考えている。